



### 仕事への誇りを胸に

- 01** 医療用防護服を制作する「リビエール」の胡秀雄さん(40)。「防護服をたくさん作り、最前線で闘う医療従事者を支えたい」
- 02** 野菜を育てる朝利用典さん(24)。「おいしい野菜で笑顔になってもらいたい」
- 03** 日本郵便茨木郵便局の配達員、福留慈士さん(38)。「荷ってくださっているお客さんのもとへ確実に届けたい」
- 04** 運送業「ランナー」の川原啓志さん(36)。「荷物を届けた時、前へ進む人たちのお手伝いのできた気がする」
- 05** ステイホームする親子。「さまざまな職種の人たちの支えがあるから、安心して家族との大切な時間を過ごせる」
- 06** 清掃業「大栄」の寺崎佳奈美さん(28)。「どんな状況下でもきれいな街を守り続けたい」
- 07** JR東海の社員。「お客様に東海道新幹線を安心して利用してもらえるよう今後もしっかりと取り組みたい」

## 新しい日常を生きる

### セレクション

新型コロナウイルスの感染拡大にともなう緊急事態宣言が全面解除され、街は少しずつ「日常」を取り戻しつつある。当たり前だと思っていた暮らしが、当たり前でなくなってしまう日々…。その一日一日を変わらず支え続けてくれた人々の思いが、きょうこの日につながっている。

「妻方だからこそ多くの人の役に立てる」。倉庫から段ボールを運び出す兵庫県尼崎市の運送業「ランナー」の川原啓志さん(36)の手に力が入る。

する川原さん。緊急事態宣言下では県外で働きたい視線を向けられたこともあった。「物流が止まれば困る人がいる。だから止めるわけにはいかない」と言い聞かせたと振り返る。

緊急事態宣言が全面解除され、街は日常を取り戻しつつある。「ピーク時に比べて、少し落ち着いたかな」と西宮市内で作業を終えたごみ収集会社「大栄」の寺崎佳奈美さん(28)。それでも外出

自粛で在宅の人々が多いせいも、ゴミの収集量は通常より多いという。散乱した使い捨てのマスクなどを回収することもあり不安がないわけではない。だが「ゴミ袋に

## あなたが支えてくれるから

「いつもありがと」のメッセージが貼ってあったときは励みになった」と話す。

ファイターに感じとらえた人々は「自分たちは目立たない職業」と口をそろえていた。だが仕事にかける真剣で、そして優しいまなざしは、きっとコロナ禍のあのときも、そしてこれからも変わらないはずだ。いまこそそんな「ヒーロー」と「ヒロイン」に感謝を届けたい。そしてみんなで前を向こう。

写真報道局 渡辺恭光

